

写真アルバムから

シリーズC 寺社華風月 (白黒)

C11 潮来・鹿島・銚子 1975

森隆一



潮来 (Google Map)

C11. 潮来・鹿島・銚子 1975

この頃には、遠隔地でのセミナー・シンポジウムなどの後は、撮影のため寄り道することになっていた。今回は未宿泊県の茨城県・千葉県に宿泊することを目標にした。このため、水戸などは外して潮来など利根川下流域に行くことにした。切符をどこまで買うかを決めかねたので、佐倉辺りまで行けるということで、自動販売機で最長の切符を買った。佐倉は‘佐倉惣五郎’しか浮かんでこなく、香取で降り、潮来の国民宿舎に泊まった後、鹿島神宮を見て、銚子に泊まった。香取神宮は小雨と時間が無かったので、殆ど写真を撮らなかった。

潮来

潮来は‘潮来花嫁さんは 潮来花嫁さんは 船で行く’で始まる唄が浮かぶ程度であった。この唄は島倉千代子が歌っていたと思っていたが、Wikipedia「潮来花嫁さん」では、作詞 柴田よしかず、作曲 水時富士夫、昭和35年(1960年)4月に、花村菊江の歌でコロムビアレコードから発売された、ということである。

ということで、水郷巡りをした。以下はこの時の写真である。





鹿島

鹿島で思い浮かぶのは、現在では鹿島アントラーズであろうが、当時の筆者は‘鹿島〇〇流’程度である。Googleで、鹿島神流(鹿島古流・鹿島中古流)塚原ト伝を見つけた。

以下は鹿島神宮で撮った写真である。



銚子

鹿島の後、太平洋岸では千葉県最北の街銚子に向かった。着いたのは夕方に近かったので、駅近くに宿をとることにした。予定としては犬吠埼への往復だけなのと、東京には2時間ほどのため。1泊することにした。駅前にビジネス・ホテルは見当たらなかったため、駅前旅館的な宿にした。朝食でのアジの一夜干しがおいしかったことは覚えている。干物は日本の誇るべき食材と考える。

翌日犬吠埼に出かけた。ここには、幾つかのリゾート・ホテルも見られた。東京からは日帰りも可能であるから、駅前に旅館が少ないのが納得できた。

当日は曇り空で風が強く1時間ほどで切り上げた。

以下のこの時撮った写真である。





最後の写真については、まず、東映の映画のオープニングが思い浮かび、昔見た映画イメージに近い写真を目指した。

もののはじめ blog 「東映のオープニング」では、

東映映画のオープニング映像は「荒磯に波」が通称とされる。これは千葉県銚子市の犬吠崎灯台近くの正門間反対の磯辺で撮影された。東映株式会社は東京映画配給が、昭和26年東横映画と太泉映画を吸収合併して出来た会社。荒磯に波は3つの岩を3つの会社、押し寄せる文化の波にも負けないという姿勢を表したものと書かれている。

遊び

潮来の宿で、テレビを見ているうちに、テレビ画面を撮影することを思いつき、机の上に物を置き、高さを合わせて試みた。



上は何かのバラエティ番組の1画面で、左はキャンディーズ、右は研ナオコである。

翌日も試みた。写真からわかるように金曜スペシャルという番組で、南米、ブエノスアイレスか、の〇〇地帯の潜入ルポと称する内容であった。



あとがき

今回は移動距離も短く、のんびりできた。と同時に、対象を絞ることも思いついたが、何に絞るか思いつかず、行き当たるまではこのままで行くことにした。

「1-1. テレビ①解像度と画面表示」では、

①水平解像度：一般的にテレビの解像度というと水平解像度を指す。水平解像度は、画面に縦じまの白黒ラインを表示させて、そのラインを水平方向に動かしたとき、縦じまのラインを何本見分けられるかによって示される。アナログ放送はテレビの伝送帯域にも影響を受けたので、解像度はそれほど高くなかった。アナログ放送のブラウン管テレビは、330～350本が一般的だった。

②垂直解像度：画面に横じまの本数が何本表示できるかを示す。ブラウン管テレビでは走査線数で垂直解像度が決まった。NTSC方式の走査線数は525本だったが、実際にテレビ画面に映し出される有効走査線数は480本だったので、垂直解像度は480本となっていた。

●テレビの解像度

デジタル放送対応の液晶テレビなどは、解像度を横(水平方向)×縦(垂直方向)に配列された画素の数で表わす。画素とは、横縦に配列された点(画素)が集まったもの

である。一つ一つの画素は、光の3原色であるRGB それぞれを表示する3つで1画素を構成している。なお、画素はドットまたはピクセルとも呼ばれる。

薄型テレビの解像度は、 $1,920 \times 1,080$ (=約207万)のフルハイビジョンが主流である。ちなみに、アナログ放送受信用のテレビの解像度を画素数で表現すると 640×480 (=約31万)となり、この画素数の放送を標準(SD)放送、画質を標準(SD)画質と呼ぶ。

地上デジタル放送の画素数は $1,440 \times 1,080$ (=約155万)である。テレビ側で画素補間することで $1,920 \times 1,080$ (=約207万)のフルハイビジョン映像の解像度として表示させている。地上デジタル放送の画素数(=約155万)は、標準放送の画素数(=約31万)の約5倍の情報量を持っているといえる。

BS・110度CSデジタル放送の画素数は、 $1,920 \times 1,080$ (=約207万)のフルハイビジョン映像である。フルハイビジョンの解像度を持つテレビで、画素補間することなく表示される。

4Kテレビとは $3,840 \times 2,160$ (約829万)や $4,096 \times 2,160$ (約885万)の解像度を持つテレビで、フルハイビジョンの $1,920 \times 1,080$ (約207万)に比べて約4倍の情報量を持つ。水平画素数が約4,000あるので4Kと呼ばれている。なお、4Kの表示能力があっても4Kチューナーが内蔵されていないテレビを「4K対応テレビ」と呼ぶ。

4K対応テレビで4K放送を見るには、4KチューナーをHDMIケーブルで接続する。HDMI端子は「2.0」、著作権保護技術はHDCPは「2.2」に対応している必要がある。

テキサホールディングス

「デジタルカメラと 35mm フィルムの解像度（解像度比較 2 回目）」

では、

撮影～視聴までのシステム全体の「解像感」として、概ねスチル写真フィルムの場合(横送りの 35mm)で、1000 万画素から良くて 1500 万画素の撮像素子相当、映画フィルム(縦送りの 35mm)で悪い場合は HD と 4K の間を取って 3K 程度という意味で 500 万画素相当、すごく良いカメラとレンズでオリジナルネガから近いプリントなど状態が良い場合でせいぜいどんなに過大評価をしても 4K 相当までは届かないだろうというのが、私の目視での評価です。